



2019・6・21

第 342 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

国会論戦踏まえ参院選で安倍政治に審判を

経済同友会が改憲論議に期待

企業経営者個人が参加する経済同友会は昨年 11 月、安全保障委員会が「報告書一わが国の安全保障体制について国民的論議をおこなうために」を、今年 4 月に憲法問題委員会が「2018 年度活動報告書」をまとめています。

前者は、「2018年3月発表の自民党改憲案であるが、自衛隊の違憲論争に終止符を打つことが目的とされ、憲法解釈は不変としている。立法技術上の問題点などの指摘がある中で、9条2項の削除が現実的ではないとの判断の下、できることを少しでも前進させる意義が強調されている。安倍首相は早期の改憲案提出に強い意欲を示している。改正の意義を十分に説明し、国民の間で幅広い論議が行われることを期待する」としています。

後者も自衛隊をめぐる裁判などを紹介し、「このように司法の場においても、9条や自衛隊についてさまざまな判断や解釈がされている。しかし、国の平和・安全・独立を確保するために、自衛隊の存在が必要とされ、多くの国民に支持されている現実があ

ることを考えると、このような違憲論が生じる問題を払拭する必要がある。但し、その判断をするのは国民であり、立法府と行政府は、国民の間に広く議論を起し、自衛のための戦力を保持する必要性と、そのための憲法改正の意義に正しい理解を求め、真剣な努力を行うべきである」。

支配層の側も「総かがり」で改憲にのぞもうとしているのです。

「本気で参院選に向き合おう」

【東京都／九条の会東京連絡会】 12 日、「憲法 9 条、変えさせない。安倍政治は、もう終わり。九条の会東京連絡会 6・12 大集会」が中野区で開かれ、会場いっぱいの 800 人が参加しました。

講演した九条の会事務局の渡辺治一橋大学名誉教授は「安倍政権はこの 2 年間、改憲の発議をできなかった。これは私たちが『3000 万人署名』を行い、市民と野党が改憲反対でがんばったからだ」と強調。その上で、「安倍政権は改憲をあきらめてはいない。参院選は改憲を許すかどうかの正念場だ」と力説しました。

安倍政権による 9 条改憲の危険性を解説

した渡辺氏が「参院選では、市民と野党が安倍政治を変える構想を掲げ、本気で死に物狂いでたたかう必要がある」と強調すると、大きな拍手が起りました。

集会では、コメディアン松元ヒロさんが安倍政権を風刺するパフォーマンスをし、「参院選で自公政権を倒しましょう」と呼びかけ。沖縄の2人組ユニット「MILK(弥勒(みるく))」が沖縄三線(さんしん)とピアノで演奏し、沖縄との連帯を訴えました。

集会に参加した船越賢明さん(38)は「市民と野党が安倍政治に代わる対案を示していることを幅広い人にアピールしたい。若い人たちに、『声をあげていいんだ』『こういう道があるんだ』と伝えたい」と感想を語りました。

日曜朝市で3000万署名を訴え

【青森県／戦争法廃止を求める三八連絡会】 三八連絡会は9日、青森県八戸の館鼻岸壁で毎週日曜日に開催される日曜朝市会場で、「安倍9条改憲No.！3000万人署名」に取り組みました。

今年初めてとなる朝市署名は、朝6時半から開始。年金者組合三八支部などから14人が参加し、約1時間で145人が署名しました。

署名に応じた市民からは、「安倍首相には、一刻も早くやめてもらいたいね」と安倍政権退陣を求める声や、「群馬県だけどいいですか」と聞いて署名する観光客など、対話がはずむ取り組みとなりました。

県内全域で宣伝カーを運行

【愛知県／あいち九条の会】 あいち九

条の会は自民党改憲案の国会発議を阻止するために、市民に呼びかけようと、「九条の会宣伝カー」を用意し、愛知県下の九条の会に運行の協力を呼びかけました。

このあいち九条の会の取り組みに、あいち市民アクションは全国で宣伝カーを走らせようとの提案を準備していた矢先であり、渡りに船とばかりにいっしょに運行することを決め、各地の市民アクションに活用を呼びかけて宣伝カーが運動をひろげています。

6月はすでに10日間(6月10日現在)の運行が決まりました。

この6月4日にはあいち九条の会・あいち市民アクションの会・愛知憲法会議の3団体共同で名古屋駅周辺などで街頭宣伝を行いました。

6日、名古屋市内の大坪九条の会は、地元である天白区大坪学区を中心に宣伝、署名を行い、「宣伝カーでの訴えに、手をふって応えてくれる人がいたり、いつもはあまり反応のない名城大学の学生も手をふって応えてくれた。訴えがよくとおおり、よかった！」との感想をいただいています。

参議院選を前に改憲反対の声をひろげるため、九条の会宣伝カーは愛知県下を走りまわります。

幅広い結集めざしネットワーク

【鳥取県／鳥取市9条の会など】 鳥取県の弁護士有志の呼びかけで15日、県内の市民団体が集まり、政権に憲法を守らせるためにホームページで情報発信するネットワーク(プラットフォーム)をつくることで合意しました。

呼びかけたのは中崎雄一、大田原俊輔の両弁護士ら。鳥取市9条の会、県中部九条の会、教職員組合などの代表が参加しました。

大田原氏は、安倍政権の下で戦争法など憲法違反の法律が強行され、9条改憲など憲法改悪が狙われているとして、立憲主義を守るために県内の幅広い団体、個人を結集することが大事だとして、ネットワーク立ち上げの意義を語りました。

参加者で話し合い、名称を「壊憲いけん鳥取県ネットワーク」とし、県内の団体、個人の活動を紹介、情報交換し、発信することを確認しました。

6 野党参院選挙勝利へ揃い踏み

【香川県／9条の会かがわ等】 9条の会かがわと香川革新懇は6日、高松市で安倍政権退陣を求めて集会とデモ行進をしました。

集会では立憲民主党の富野和憲県連代表、国民民主党の山本悟史県連幹事長、日本共産党の松原昭夫県委員長、社民党の吉峰幸夫高松市議、新社会党の井角操県委員長がリレートークしました。

各氏は参院香川選挙区の野党統一候補・おだ美和子氏の勝利へ決意表明。

自転車を止めて聞き入った男性(88)は、「安保法制廃止、安倍政権退陣」の訴えに、「その通り。安倍政権を野党共闘で倒さないといけない」と話しました。

60回迎えた憲法守れの昼デモ

【和歌山県／憲法九条を守る和歌山弁護士会】 憲法九条を守る和歌山弁護士会は

12日、「憲法の破壊を許さないランチ TIME デモ」を和歌山市で実施し、60人が参加しました。

同デモは安倍政権による集団的自衛権の行使容認の閣議決定とい暴挙が目前に迫った2014年6月23日から始まり、この日で60回目を迎えました。

和歌山市役所前でのデモ出発集会で、参院選挙和歌山選挙区の野党統一候補、藤井幹雄弁護士は、安倍政権による集団的自衛権の行使容認や戦争法などをきびしく批判。自衛隊を憲法に明記し、日本を戦争する国にする安倍9条改憲を許してはならないと訴えました。

参加者らは「憲法守れ」「戦争する国ぜったいアカン」などコールしながら市内を行進しました、

年配者が危機感もって署名

【青森県／青森県九条の会】 青森県九条の会は5日、青森市新町商店街で3000万人署名に取り組みました。11人が参加し、「戦争する国づくりは許さない。安倍9条改憲阻止へ力をあわせよう」と署名を呼びかけました。

「あなたは戦争へ行きますか？子や孫を戦場へ送りますか？」の横断幕を掲げ、「いのちを大切に政治に変えよう」と訴えました。

立ち止まった高齢の男性は「モノ忘れが多くなって、署名に時間がかかる。それでもいいか」と参加者にことわり、ゆっくりと椅子にこしをかけて署名しました。

横断幕の後ろからひょいと顔を出した女性(81)が手を動かし「署名する」しぐさ

をしました。気づいた参加者が女性にかけよると、にっこり笑い署名。

「安倍首相は、正しことが通用しない怖さがある。戦争が起こる前に、安倍首相を止めさせないとダメだよ」と語りました。

改憲NOの署名若者の反応いい

【岐阜県／岐阜・九条の会】 岐阜市で11日、「若者は憲法9条をどう受け止めているか」をテーマに、「九条の会・各務原」世話人の三戸光則さんを講師につどいが開かれ、14人が参加しました。主催は「岐阜・九条の会」サロン9条例会。

三戸さんは、全国43の高校で実施された「模擬国民投票」に触れ、「結果は改憲反対が7割以上を占めたが、改憲賛成の高校生が議論を通じて反対に回り、逆に反対から賛成になった高校生もいた。一貫して見えるのは、教育をきちんと受けてこなかったこと。危うさを感じる」と指摘。「戦争法廃止の『9の日』行動、アベ政治を許さない『3の日』行行動、原発ゼロ『金曜』行動など、あきらめず、続けることが生きがいにもつながる」と語りました。

討論では、「若者の保守志向が強まるなか、改憲反対が多数を占めたのは意外だ」、「平和の危険を感じて九条の会を知った。流されずにつながってほしい」、「安倍9条改憲NOの街頭署名で高校生や若者が一番反応いい。影響を与える活動を続けていきたい」などと語られました。

「岐阜・九条の会」代表世話人の吉田千秋さんは、「学校教育も大事だが社会教育こそ重要。肌で感じてもらう活動を続けていこう」と結びました。

一筆一筆の署名にドラマがある

東京江戸川区・九条の会葛西 元澤 光

居住するマンションで3000万署名の収集ポストをやってくれないかと頼まれ、名前を出すのも、と迷いましたが受けました。世話人さんの、「4～5通くらい届くかな」との話で、そんなものかと思っていました。

最初に5～6通届きました。後から毎日のように、1通、2通と届き、合計15通。

なかには家族で書いたものや、身体の不自由な家族の方の署名もあり、胸が熱くなりました。同じ住宅に長い間一緒に暮らしていても、全く名前を知らない方、またわざわざ自宅に届けてくださる方、署名の中にはたくさんのドラマがある気がしました。

安倍政権に対する怒りや、戦争は嫌だ、これからどうなるのかの不安を抱き、多くの人が、今黙ってはいけな、何かしなければの気持ちに突き動かされたのではないのでしょうか。

署名をするにはとても勇気がいります。見ず知らずの人に、自分の名前や住所を明かすのですから。「署名を集めているのは信頼できる人だから」の思いもあって寄せてくださった方々に感謝します。

この署名活動を通じて9条改憲の中身や活動の内容を知ってもらえました。勇気を出して署名をしてくれた人の思いや家族との会話を想像すると、たとえ数的には多くなくてもとても大切な活動だと思いました。

この経験を通じてたくさんの励ましと確信を持つことができました。これからもみんなでがんばりましょう。

(「九条の会葛西だより」147号)